

## 今日のトピック 原油価格は緩やかに上昇（2019年11月） OPEC総会を控え協調減産延長を織り込む動き

### ポイント1 原油価格は緩やかに上昇 協調減産延長を織り込む動き

- 北米の代表的な原油価格であるWTIは、11月は月を通じて緩やかな上昇傾向を辿っています。
- 米中通商協議に対する不透明感から下落する場面もありましたが、12月開催予定の石油輸出国機構（OPEC）総会と非加盟産油国を含むOPECプラスにおいて、2020年半ばまで協調減産を延長する公算が高いとの報道を背景に緩やかに上昇しました。

### ポイント2 OPEC産油量は回復 サウジアラビアの供給が回復

- 11月14日に公表されたOPEC月報の11月号によると、10月のOPEC加盟国の原油生産量は前月から増加しました。日量で前月比+94万バレルとなる2,965万バレルとなりました。
- 石油施設への攻撃から減産を余儀なくされていたサウジアラビアの生産が概ね回復したことが背景です。
- 2019年の世界の原油需要は日量9,980万バレルと予想されており、需給の均衡にはOPEC加盟国で3,071万バレルの供給が必要と見られます。原油生産量が現状程度で推移すれば2019年は需要が供給をやや上回りそうです。

### 今後の展開 来年の供給過多を見込み 協調減産の延長がはかられよう

- 米中通商協議は部分合意に至ったと報じられたものの、足元、先行き不透明感が残っており、世界的な景気減速懸念が需要見通しの重石となっています。原油は2020年には非加盟産油国の増産が見込まれており、12月のOPEC総会、非加盟産油国を含むOPECプラスにおいて、2020年半ばまで協調減産を延長することが決定される見通しです。
- 当面の原油価格については、OPEC総会に向けて協調減産延長の織り込みが進むと見られます。また、需要見通しに大きく影響する米中通商協議の行方も注視する必要があります。

【WTI原油価格と北米のリグ稼働基数】



（注）データは2018年1月5日～2019年11月22日、ともに週次データ。

（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【世界の原油需給見通し】

	2018年	2019年	2020年
<b>世界需要</b>	<b>98.8</b>	<b>99.8</b>	<b>100.9</b>
<b>供給</b>	<b>99.1</b>	<b>99.8</b>	<b>100.9</b>
非OPEC	67.2	69.1	71.3
OPEC	31.9	30.7	29.6
<b>需給バランス</b>	<b>0.3</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>

（注1）需給バランス＝供給－需要。

（注2）単位は百万バレル（日量）。

（注3）2018年は実績。2019年、2020年はOPECによる予想。ただし、2019年と2020年のOPEC生産量は全体の需給が均衡するとの仮定のもとでの弊社算出値。

（注4）四捨五入の関係で、OPEC、非OPEC供給量の合計は必ずしも全体の供給量と一致しません。

（出所）「OPEC月報」のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

**ここもチェック!** 2019年11月26日 2019年12月の注目イベント  
2019年10月30日 横ばい圏で推移する原油価格（2019年10月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。